

光明寺

伝説によると、光明寺は仏教の普及にかかわった重要な人物である聖徳太子（574 年～622 年）によって 599 年に創建されたとされています。光明寺は、かつて 72 の寺院が立ち並んでいた君尾山のそばにあります。光明寺の元の建物のほとんどは、内乱によって破壊されてしまいました。しかし 1836 年に再建された本堂は現在でも良好な状態を保っており、そして鐘楼の中には 400 年前の鐘が残っています。そして仁王門と寺院の中にある彫像は、古来からの貴重な遺産なのです。

光明寺の門は三間からなる二重門で、光明寺を訪れる人は寺の敷地に入るときに、この中央の間を通ることになります。この入母屋造の屋根は 4,500 枚ほどの栗板で覆われています。以前はこの門ははるか昔に作られたと考えられていましたが、1950 年の改修中に見つかった記録により、1242 年から 1253 年の間に建設されたことが判明しました。当時、2 重構造の門は珍しく、これは光明寺が非常に高位な寺であることの証なのです。また屋根板が使われるのも珍しいことでした。そしてこの光明寺の門は、1954 年に国宝に指定されています。

光明寺の木製の仁王像は朱色に塗られ、門の奥に飾られており、右側には口の開いた仁王、左側には口の閉じた仁王の像があります。この像を作った彫刻家と作られた年は確認されていませんが、1242 年に肥後定慶によって彫られた、石龕寺の仁王像と類似点が多いことが指摘されています。